

守口市人口推計報告書

令和7年5月

守口市

< 目 次 >

1. 推計方法	1
(1) 目的	1
(2) 推計期間	1
(3) 基準人口	1
(4) 推計手法	1
2. 推計結果（市全体）	2
(1) 市全体の人口推計	2
① 市全体の総人口の推移	2
② 年齢4区分の人口比率の推移	4
(2) 全国・大阪府の将来推計人口との比較	5
3. 推計結果（地域別）	8
(1) 方法	8
(2) 結果	9
① 3地域の総人口の推移	9
② 東部地域	10
③ 中部地域	12
④ 南部地域	14
⑤ 3地域の比較	16
4. 推計の詳細	18
(1) 概要	18
(2) 1歳以上の各年齢別人口の推計	18
(3) 0歳人口の推計	19

1. 推計方法

(1)目的

守口市の今後の人口を推計することで、第6次総合基本計画後期基本計画策定において将来を考える基礎資料とする。

(2)推計期間

人口推計の期間は、令和7（2025）年から令和22（2040）年とする。

第6次総合計画の期間は令和12（2030）年までだが、将来を見通すために令和22（2040）年まで推計を行う。

(3)基準人口

基準となる人口は、令和6（2024）年9月末日現在の守口市住民基本台帳とする。

(4)推計手法

同年に出生した集団（コーホート）ごとに、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する「コーホート変化率法」を用いて推計する。

本推計では、男女年齢別人口の推移を1年刻みで推計する。

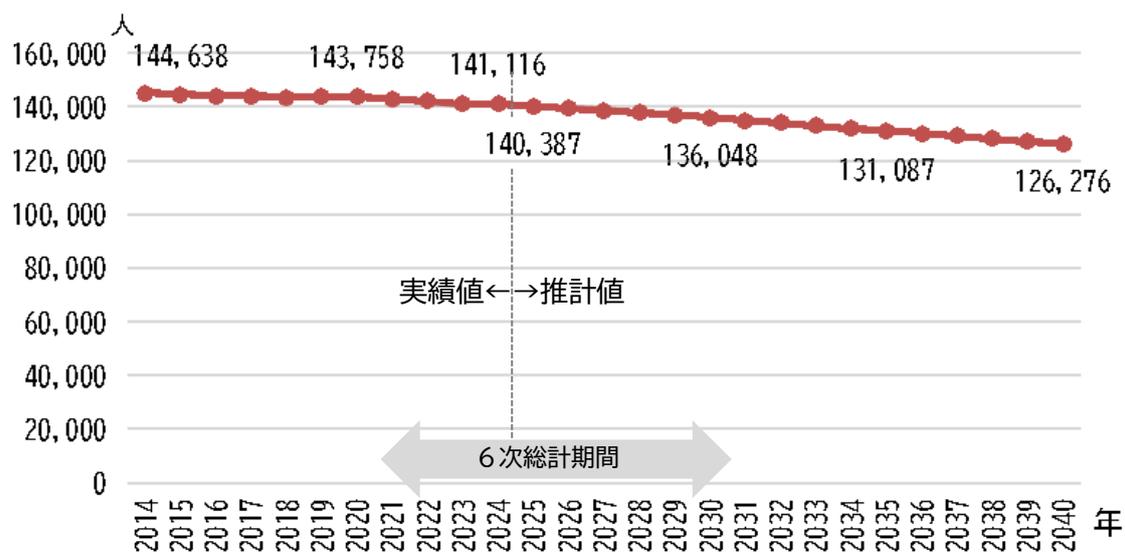
2. 推計結果（市全体）

(1)市全体の人口推計

①市全体の総人口の推移

- 守口市全体の総人口は、2040年には2024年の141,116人より約1.5万人減少し、126,276人となる見込みである。
 - 年少人口（0歳～14歳）：2024年15,769人→2040年14,231人
 - 生産年齢人口（15歳～64歳）：2024年85,575人→2040年71,937人
 - 高齢者人口（65歳以上）：2024年39,772人→2040年40,108人
 - 15歳～49歳女性人口：2024年26,780人→2040年23,468人
- 高齢化率は2024年時点では28.2%で、2020年代は横ばいが続くが、2030年代から再び増加し、2040年には31.8%になる見込みである。

図表-1 総人口の推移



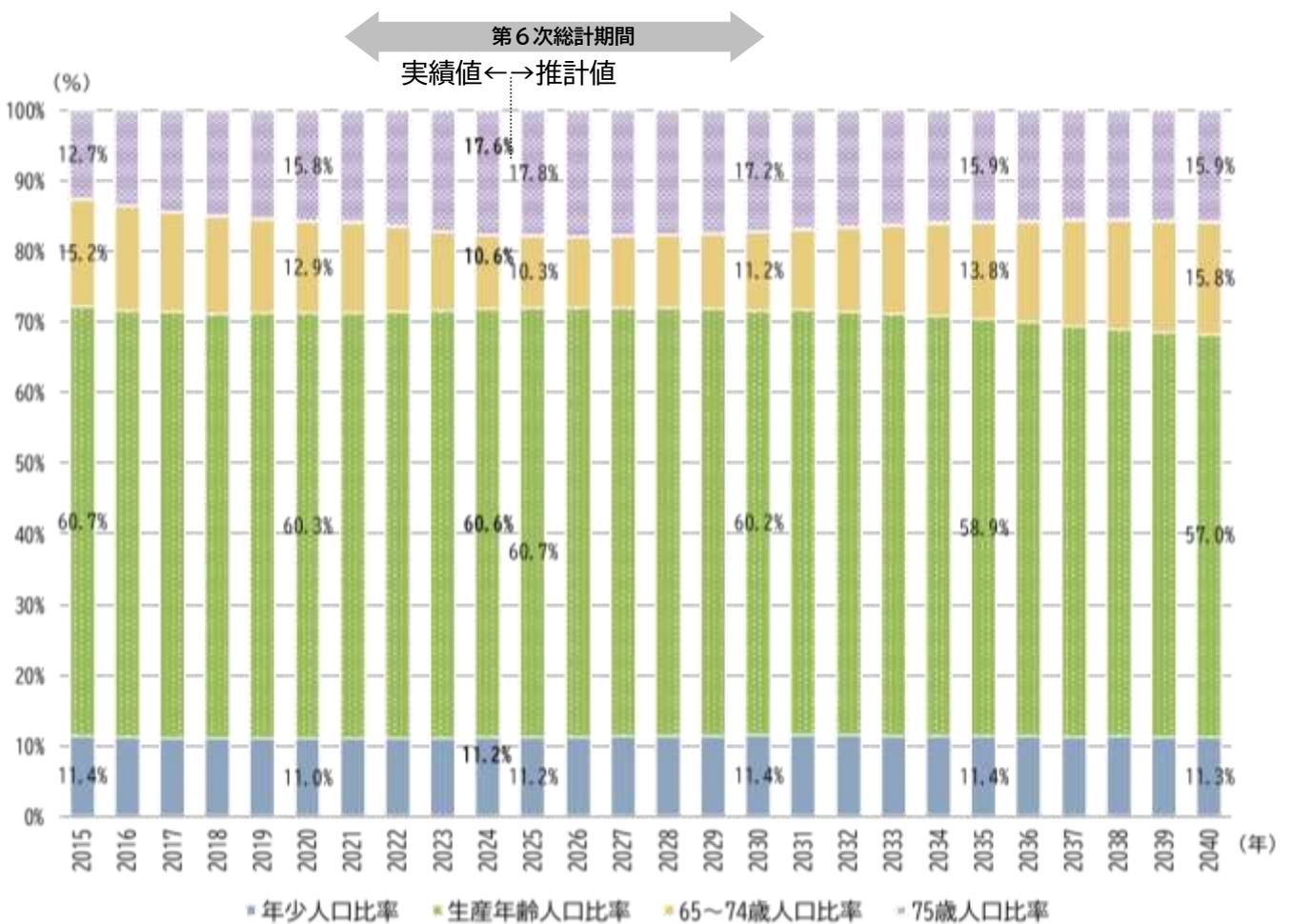
図表-2 年齢3区分人口、15～49歳女性人口、高齢化率の推移



②年齢4区分の人口比率の推移

- 年少人口比率は、2024年時点の11.2%からほぼ横ばいが続くと見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2024年の60.6%から2030年まではほぼ横ばいで、2030年から減少し、2040年には57.0%になる見込みである。
- 団塊の世代が全て後期高齢者となるなかで、75歳以上人口比率が2026年に17.9%となりピークを迎える見込まれる。団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃から、65～74歳人口比率が増加し、2040年には65～74歳人口比率、75歳以上人口比率が同程度となる見込みである。

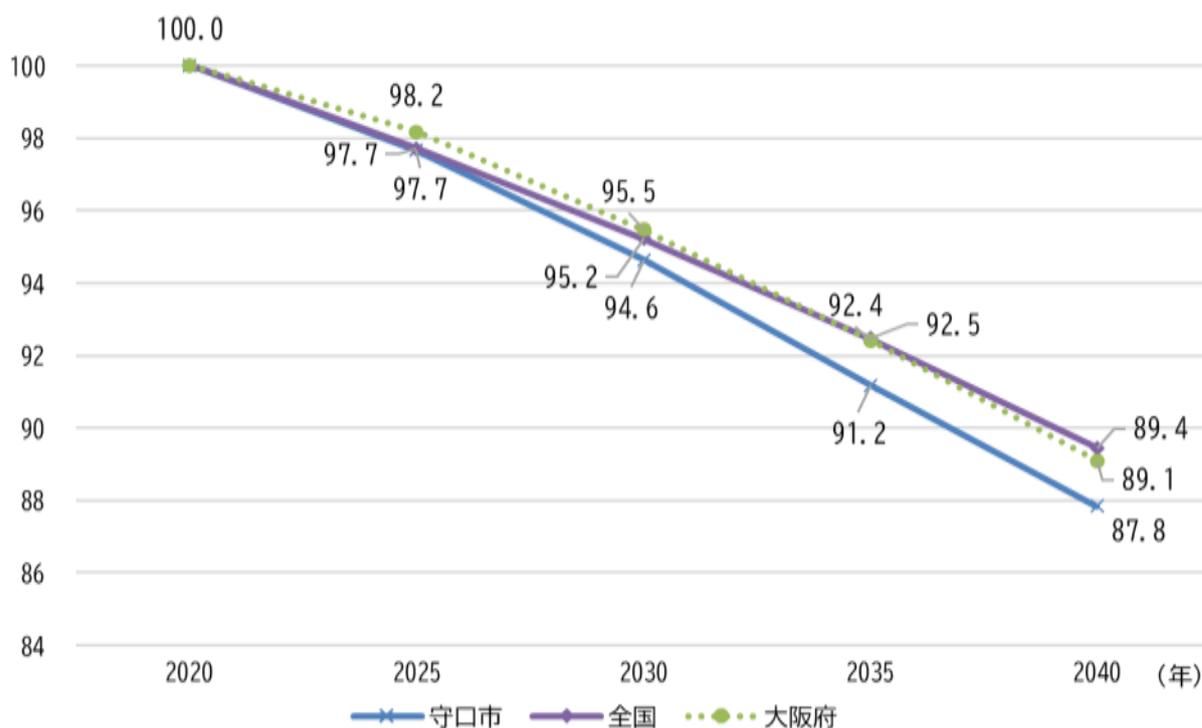
図表-3 年齢4区分人口比率の推移



(2) 全国・大阪府の将来推計人口との比較

- 2020年の人口を100とし、守口市の将来推計人口と全国、大阪府との将来推計人口の変化を比較すると、2025年までは、守口市は全国と同様の減少だが、2030年以降、守口市は全国や大阪府に比べ減少が大きくなることが見込まれる。

図表-4 全国および大阪府の将来推計人口の推移と比較



※2020年の人口を100とした場合の指数の変化。

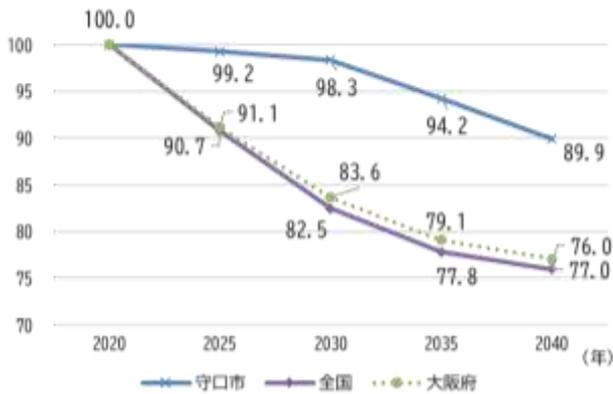
※「全国」と「大阪府」は国立社会保障・人口問題研究所による推計値。

(資料)『日本の市区町村別将来推計人口』(令和5年推計) 国立社会保障・人口問題研究所

【年少人口（0歳～14歳）】

- 2020年からの変化では、守口市は全国や大阪府に比べ、年少人口の減少が緩やかとなる見込みである。
- 守口市では、2020年の年少人口比率が全国や大阪府を下回っているが、全国や大阪府の年少人口比率が減少する2020年から2030年にかけて、守口市では横ばい傾向となり、2040年には年少人口比率が全国や大阪府と1ポイント以上多くなる。

図表-5 全国および大阪府の年少人口の将来推計人口の推移と比較



※2020年の人口を100とした場合の指数の変化。

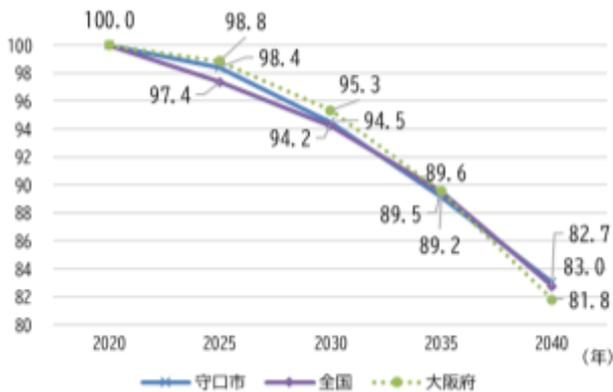
図表-6 全国および大阪府の将来推計の年少人口比率の推移と比較



【生産年齢人口（15歳～64歳）】

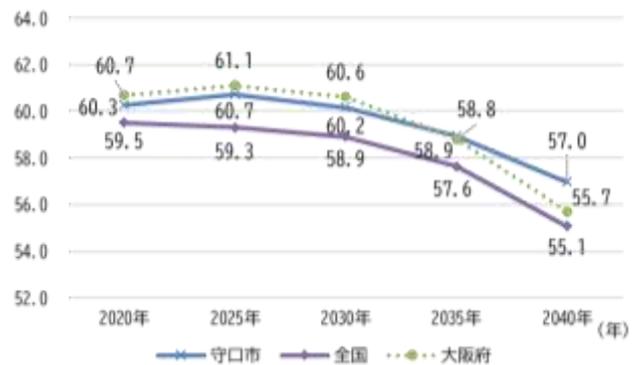
- 2020年からの守口市の生産年齢人口は全国や大阪府と同様の変化が見られる。
- 生産年齢人口比率は、2025年以降は減少傾向が見られる。

図表-7 全国および大阪府の生産年齢人口の将来推計人口の推移と比較



※2020年の人口を100とした場合の指数の変化。

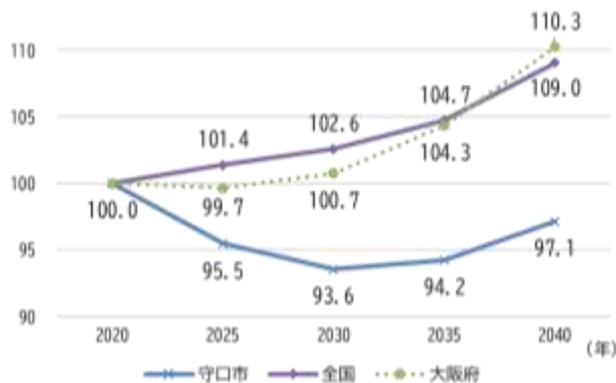
図表-8 全国および大阪府の将来推計の生産年齢人口比率の推移と比較



【高齢者人口（65歳以上）】

- 2020年からの変化では、全国や大阪府では増加傾向が続く一方で、守口市は2020年から2030年にかけて減少し、その後2040年にかけて緩やかに増加することが見込まれる。
- 2020年の高齢者人口比率が全国や大阪府を上回っているが、2025年以降は全国や大阪府に比べると、高齢者人口の割合は低い状態で推移する見込みである。

図表-9 全国および大阪府の
高齢者人口の将来推計人口の推移と比較



※2020年度の人口を100とした場合の指数の変化。

図表-10 全国および大阪府の
将来推計高齢者人口比率の推移と比較



3. 推計結果（地域別）

(1)方法

市全体の人口推計と同じコーホート変化率法を用いて、東部、中部、南部の3地域について各地域の2024年9月末の各歳人口を基準人口とし将来人口推計を行った。

3地域の区分は、小学校区に基づき以下の通り分けられている。なお、複数地域にまたがる町丁目については校区別の人口割合に応じて按分し、変化率は市全体の推計で設定した変化率を各地域、各年齢で適用している。

【地域区分】

東部	庭窪小学校、金田小学校、梶小学校、藤田小学校、佐太小学校、よつば小学校
中部	守口小学校、八雲小学校、八雲東小学校、下島小学校
南部	錦小学校、寺方南小学校、さくら小学校、さつき学園

(2)結果

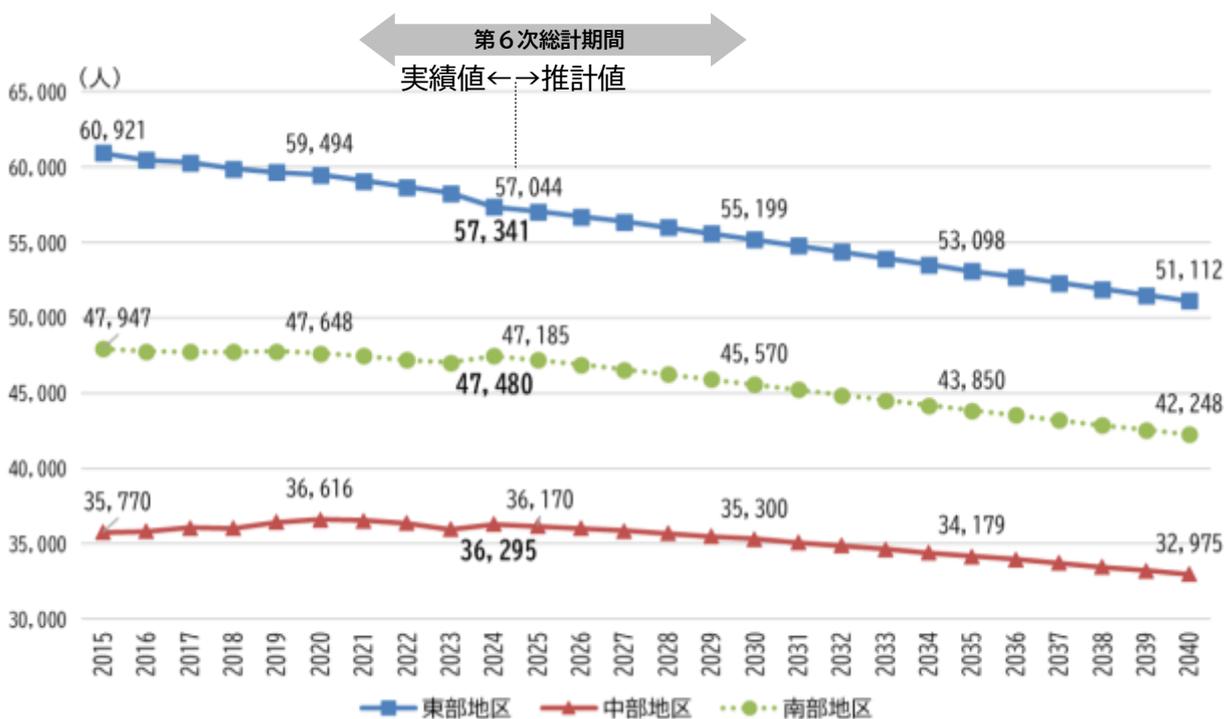
ポイント

- ◇ 3地区とも2040年の総人口は2024年から1割程度減少することが見込まれる。
- ◇ 中部地域は、現時点で東部、南部2地域に比べ高齢化率が低いが、東部と南部がこの後減少傾向に転じる一方で中部は今後も増加を続けるため、2030年には同程度になり、その後は3地域ともに増加することが見込まれる。
- ◇ 年少人口および生産年齢人口の将来人口の推移については、3地域で大きな違いは見られない。

①3地域の総人口の推移

- 東部、中部、南部の3地域とも2040年にかけて減少が続く見込みである。
 - 東部地域では、2024年の57,341人→2040年には51,112人(約6千人、10.9%減少)
 - 中部地域では、2024年の36,295人→2040年には32,975人(約3千人、9.1%減少)
 - 南部地域では、2024年の47,480人→2040年には42,248人(約5千人、11.0%減少)

図表-11 3地域の総人口の推移



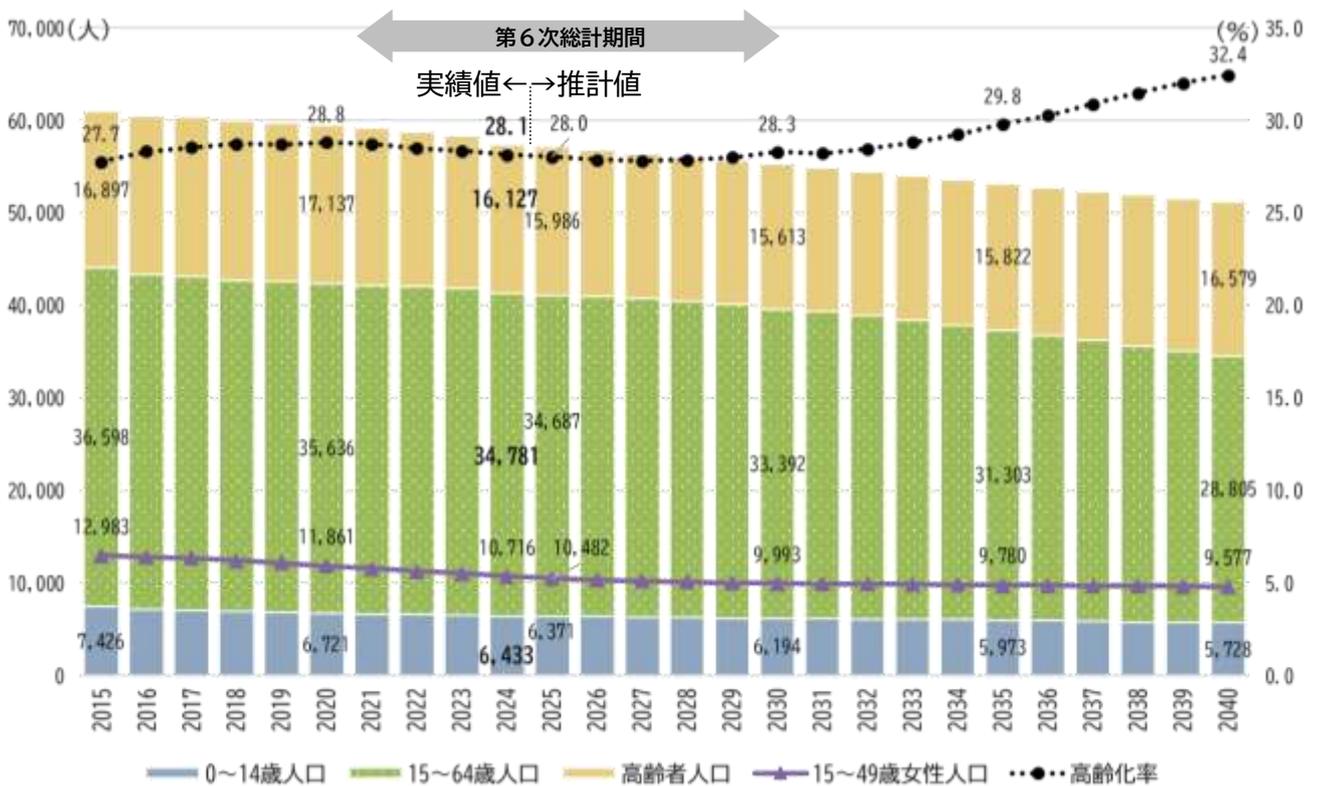
※地域ごとに再度推計しているため、3地域の推計人口の合計値と市全体の推計人口の値は一致しない。

②東部地域

(ア)東部地域の人口の推移

- 年少人口は、2024年の6,433人から約700人減少し、2040年には5,728人となる見込みである。
- 生産年齢人口は、2024年の34,781人から約6千人減少し、2040年には28,805人となり、3万人を下回る見込みである。
- 高齢者人口は、2024年の16,127人から2030年にかけて一度減少するが、2040年には現在と同程度になる見込みである。高齢化率は2030年までは横ばい傾向だが、2030年以降増加が続き、2040年には32.4%となることが見込まれる。
- 15歳から49歳女性人口は、2024年は10,716人であったが、減少が続き、2040年には9,577人となり、1万人を下回る見込みである。

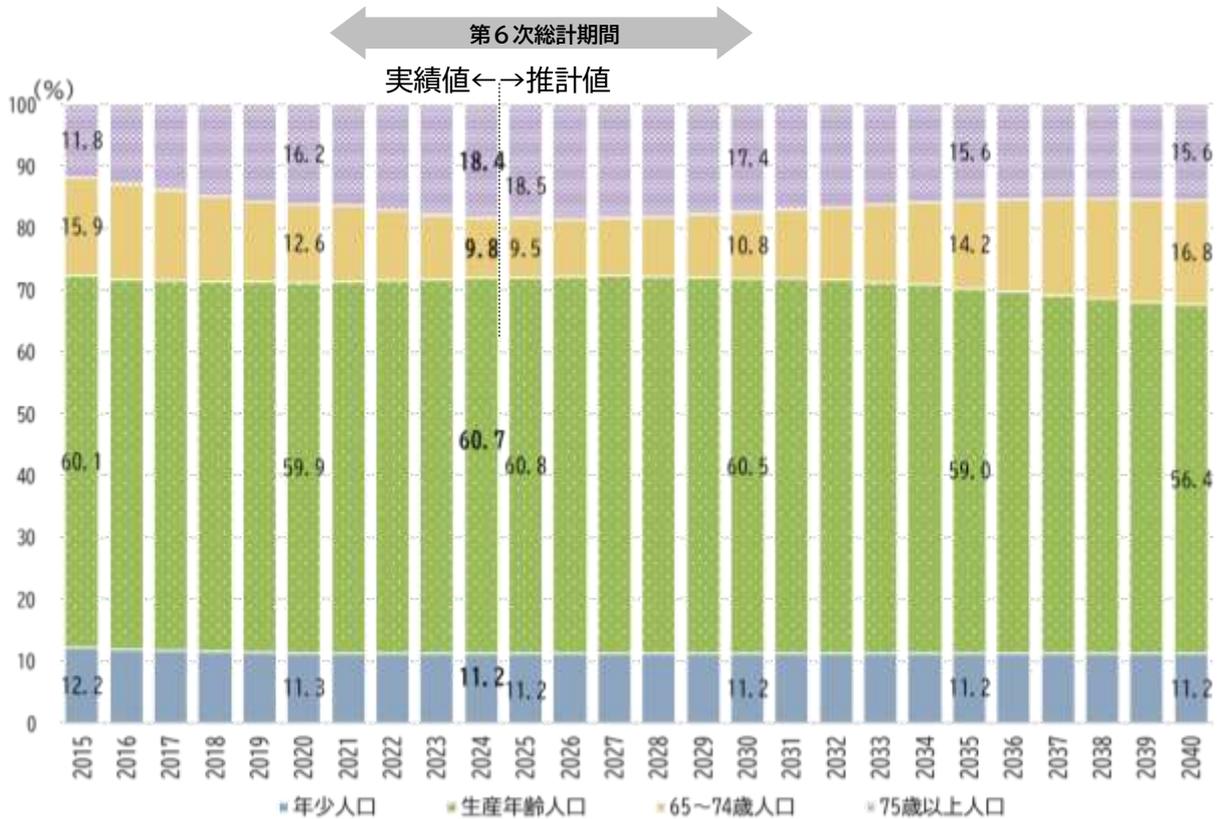
図表-12 東部地域の人口の推移



(イ) 東部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2024年時点の11.2%からほぼ横ばいが続く。
- 生産年齢人口比率は2024年時点の60.7%から2030年まではほぼ横ばいだが、2030年より緩やかに減少し、2040年には56.4%と60%を下回ることが見込まれる。
- 65歳～74歳人口比率は、2025年にかけて減少し9%台となり、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃より再び増加する見込みである。一方、75歳以上人口比率は、団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年頃にピークを迎え18%を超え、その後減少する見込みである。

図表-13 東部地域の年齢4区分人口比率の推移

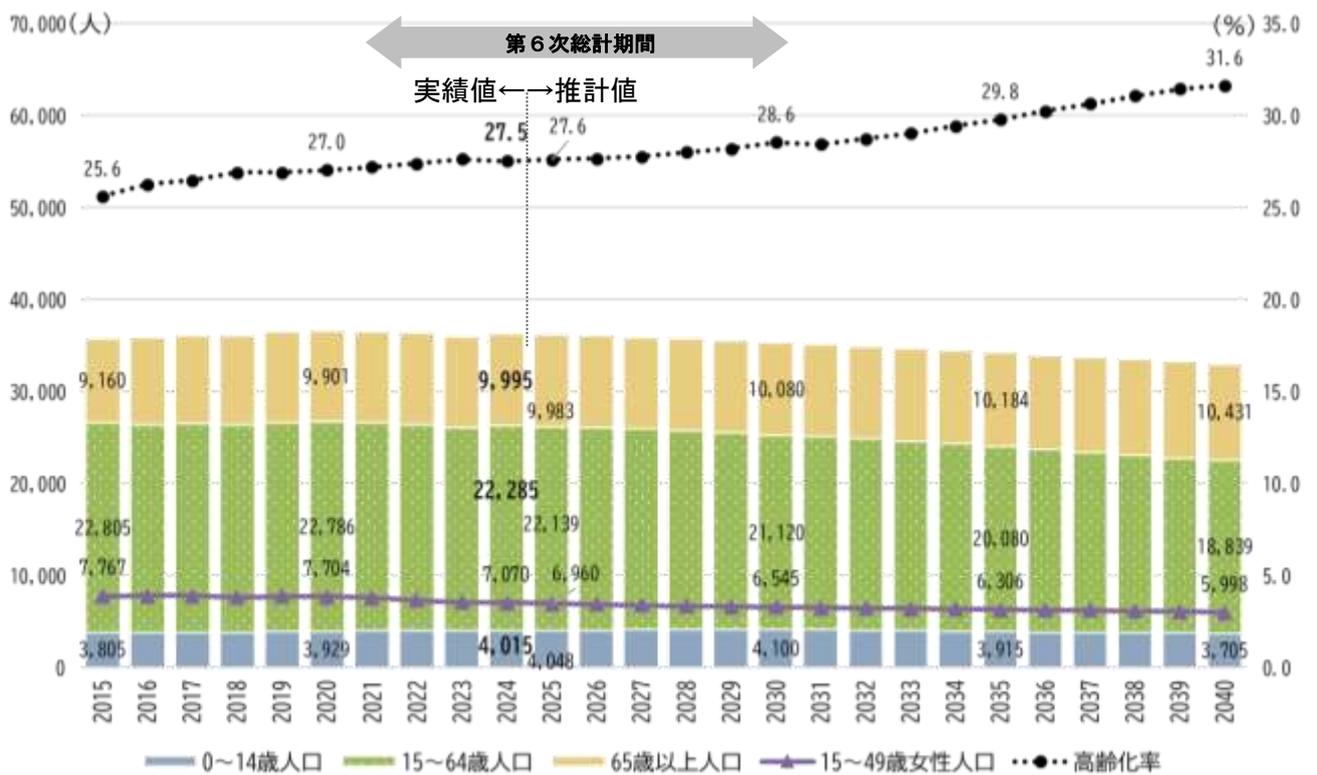


③中部地域

(ア)中部地域の人口の推移

- 年少人口は、2024年は4,015人で、2030年頃までは横ばいが続くが、その後減少傾向となり、2040年には3,705人になる見込みである。
- 生産年齢人口は、2024年の22,285人から約4千人減少し、2040年には18,839人と2万人を下回る見込みである。
- 高齢者人口は、2024年の9,995人から緩やかに増加し、2040年には約10,400人となる見込みで、高齢化率は2024年の27.5%から緩やかな増加が続き、2040年には31.6%となることを見込まれる。
- 15歳から49歳女性人口は、2024年は7,070人であったが、2040年にかけて約1千人減少し、5,998人となる見込みである。

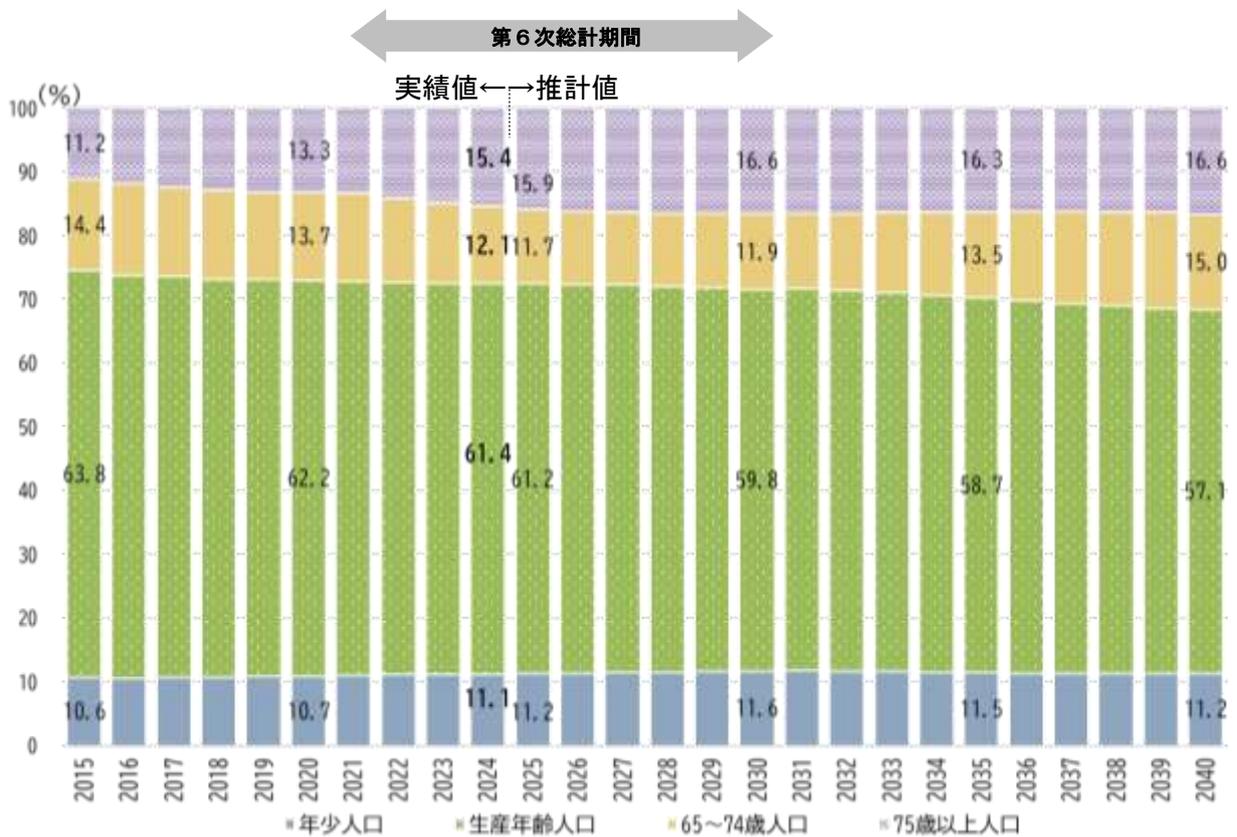
図表-14 中部地域の人口の推移



(イ)中部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2024年時点の11.1%からほぼ横ばいが見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2024年の61.4%から緩やかに減少、2030年には59.8%と60%を下回り、その後も減少が続くことが見込まれる。
- 65歳～74歳人口比率は、2025年にかけて減少するが、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃より再び増加し、2037年には2015年と同水準となる。75歳以上人口比率は、団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年にかけて増加し、その後横ばいが続く、2040年には16.6%となる見込みである。

図表-15 中部地域の年齢4区分人口比率の推移

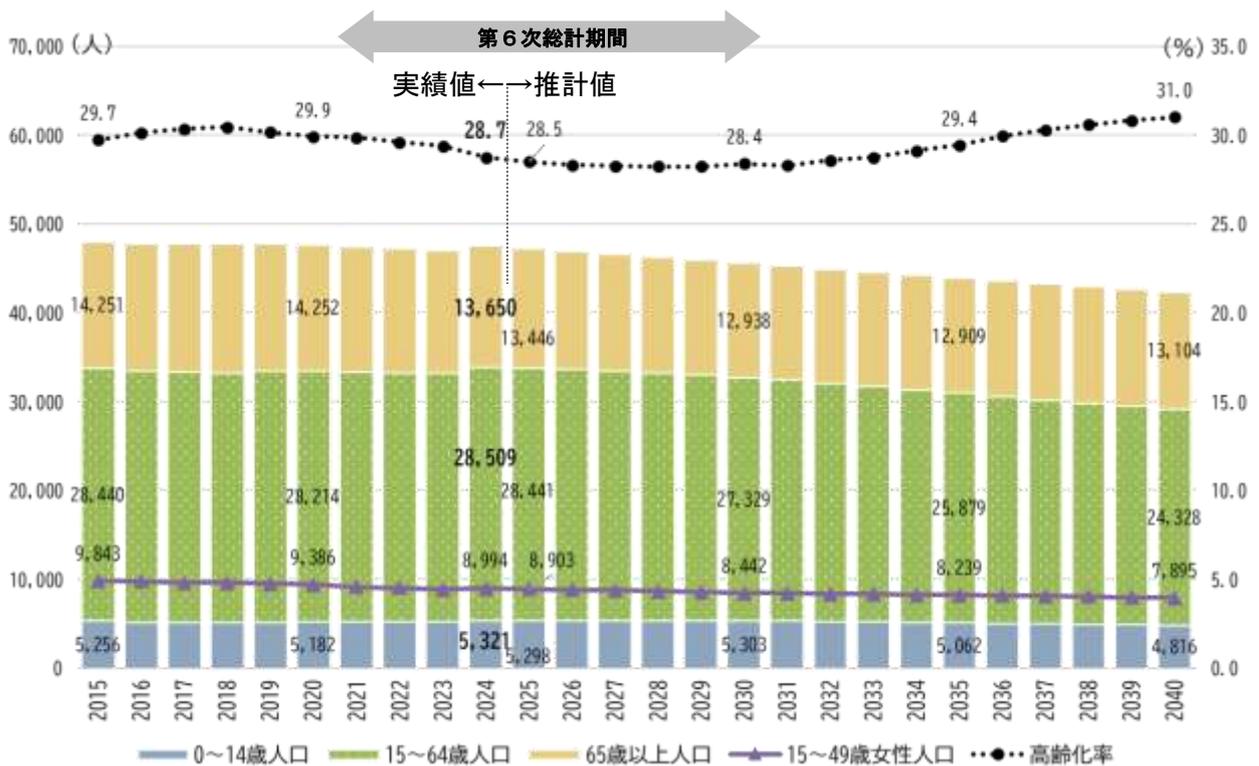


④南部地域

(ア)南部地域の人口の推移

- 年少人口は、2024年の5,321人より2030年頃まで横ばいが続き、その後減少し、2040年には4,816人となる見込みである。
- 生産年齢人口は、2024年の28,509人から約4千人減少し、2040年には24,328人となる見込みである。
- 高齢者人口は、2024年の13,650人から2035年にかけて緩やかな減少傾向が続くが、その後、増加し、2040年には13,104人となる見込みである。高齢化率は2024年時点で28.7%と高く、その後やや減少するが、2030年以降増加が続き、2040年には31.0%となる見込みである。
- 15歳から49歳女性人口は、2024年は8,994人であったが、2040年にかけて約1千人減少し、7,895人となる見込みである。

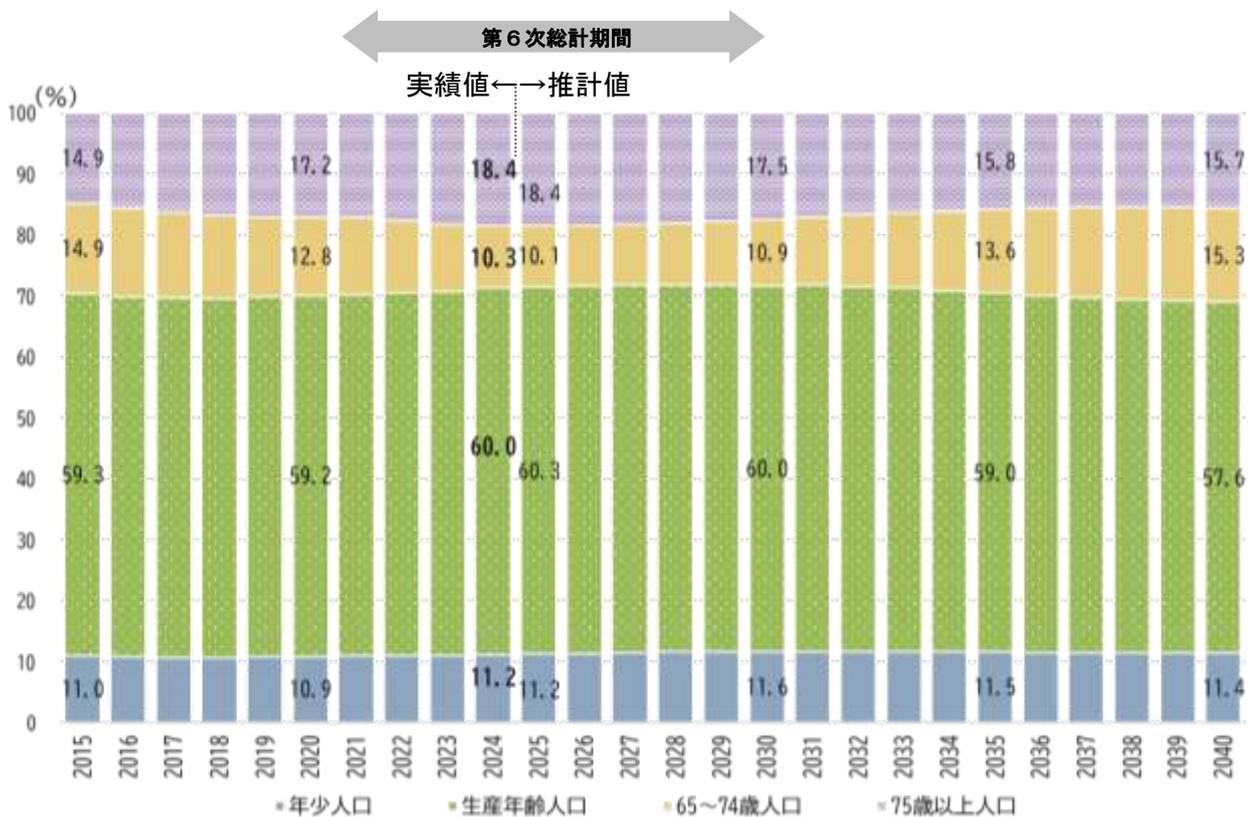
図表-16 南部地域の人口の推移



(イ)南部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2024年時点の11.2%からほぼ横ばいが続くことが見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2024年の60.0%から横ばいが続くが、2030年以降は緩やかに減少し、2040年には57.6%となる見込みである。
- 65歳～74歳人口比率は、団塊の世代が後期高齢者になっており2024年は10.3%で、その後減少した後は再び増加し、2040年には15.3%に達する見込みである。75歳以上人口比率は、2024年には18.4%まで増加したが、今後は緩やかに減少し、2040年には15.7%になると見込まれる。

図表-17 南部地域の年齢4区分人口化率の推移

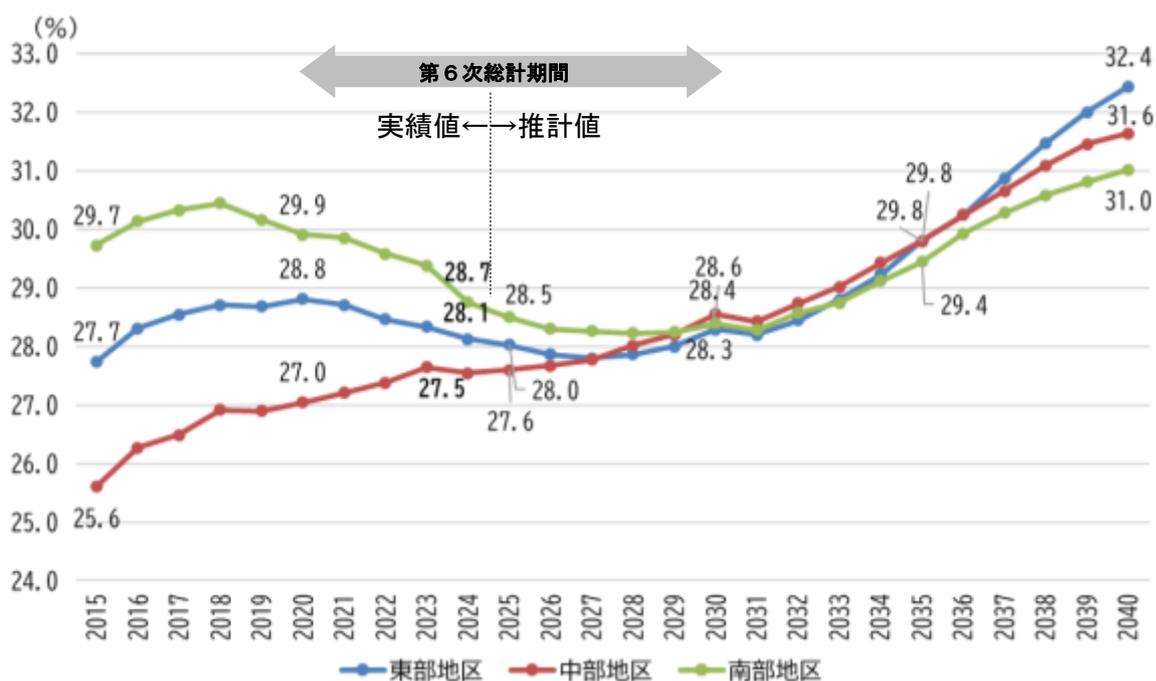


⑤ 3地域の比較

(ア) 高齢化率の推移の比較

- 2018年時点では、南部地域のみ30%台で他より1ポイント以上が高くなっていた。
- 2024年時点で南部地域、東部地域は減少に転じる一方で、中部地域は、増加傾向が見られ、2030年には3地区とも28%台になると見込まれる。
- 2040年には3地域とも約32%前後まで上昇する見込みである。

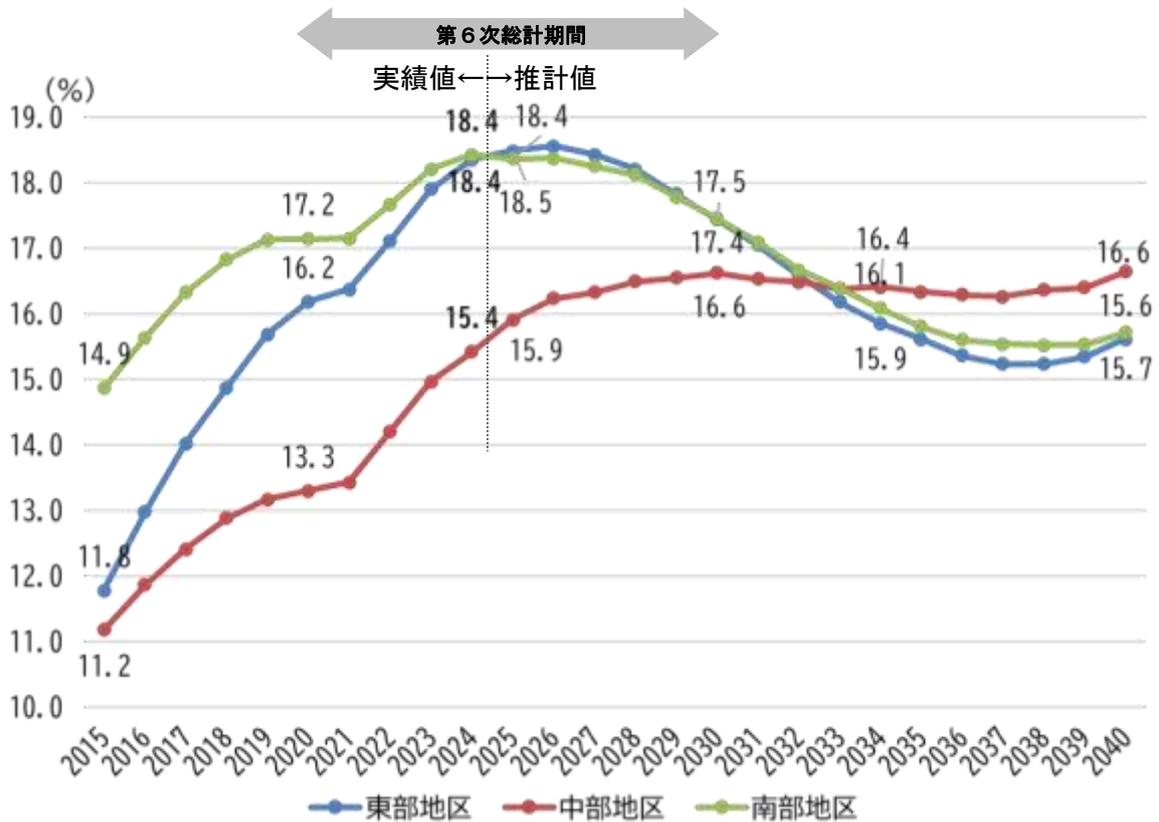
図表-18 3地域の高齢化率の推移の比較



(イ)75 歳以上人口比率の推移の比較

- 2024 年時点では、南部地域と東部地域はどちらも 18.4%だが、中部地域は 15.4%と 3 ポイント低い。
- 東部地域、南部地域では団塊世代が 75 歳以上となる 2026 年頃にピークを迎え、その後減少するが、中部地域では、2030 年頃まで増加した後、横ばいの傾向が続き、2040 年には他の地区より 1 ポイント程度高くなると見込まれる。

図表-19 3地域の75歳人口比率の推移の比較



4. 推計の詳細

(1) 概要

コーホート変化率法では、0歳児人口と1歳以上の人口をそれぞれ算出し、その結果を合わせることで、すべての年齢について男女別、各年別の将来人口が推計される。

1歳以上の人口については、過去の実績人口から各年齢の変化率を設定し、それを用いて各年齢の将来人口を推計する。0歳児人口は、女性子ども比（0歳人口を15歳から49歳の女性人口で割って算出）と、15歳から49歳の女性人口を用いて将来人口を算出する。

(2) 1歳以上の各年齢別人口の推計

コーホート変化率法では、過去の2時点の実績から各コーホートの変化率を設定し、その変化率を将来人口の推計に用いる。

例えば、守口市の男性人口において、2019年の1歳人口594人が、2020年には592人となっているので、この場合の変化率は0.997となる。今回の推計は1年刻みで行うため、各歳で各期間同様に変化率を算出する。今回の推計では、2019年から2024年までの各期間で変化率を算出し、各年齢で5期間の変化率の平均を推計に用いる変化率として設定した。

各歳の人口推計は、基準年の人口に当該の年齢で設定した変化率をかけ合わせ、算出する。例えば、2025年の男性2歳人口は、2024年の1歳人口530人に1歳の変化率1.004をかけ合わせ532人と算出される。各年齢の変化率は推計期間で一定のものを使用しており、2026年の2歳人口を求める際にも、2025年の1歳人口591人に1歳の変化率1.004をかけ合わせて算出する。

守口市男性人口						
年齢	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
0歳	556	526	585	571	493	564
1歳	594	578	553			
2歳	580	592				
3歳	551	575	587			
4歳	553	557	569			
：						

2019年から2020年にかけての1歳の変化率
 $592 \text{ (2020年人口)} \div 594 \text{ (2019年人口)}$
 $= 0.997$
 これを各歳、各期間で算出する。

【各歳・各期間の変化率】

守口市男性人口						
	2019年⇒ 2020年	2020年⇒ 2021年	2021年⇒ 2022年	2022年⇒ 2023年	2023年⇒ 2024年	5期間 平均
0歳→1歳	1.040	1.051	1.051	1.026	1.075	1.049
1歳→2歳	0.997	1.007	1.018	0.997	1.000	1.004
2歳→3歳	0.991	0.992	0.991	0.986	1.010	0.994
3歳→4歳	1.011	0.990	0.995	0.977	0.987	0.992
4歳→5歳	0.996	0.980	1.000	0.993	0.979	0.990
：						

【各歳の人口推計】

守口市男性人口											
年齢	基準年 2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
0歳	564	521	515	510	504	498	494	491	489	486	483
1歳	530	591	546	540	535	529	522	518	515	513	510
2歳	586	532	593								515
3歳	619	582									514
4歳	548	614	577								513
：											

2024年の2歳人口（男性）＝
 基準年（2024）の1歳人口（530人）
 ×1歳の変化率（1.004） ※前ページ表1歳の5期間平均
 ＝532人
 1歳以降の各歳、各年で同様の計算を行う

(3) 0歳人口の推計

0歳人口の推計にあたっては、0歳人口を15歳から49歳の女性人口で割ることで算出される女性子ども比を使用した。下表のように、男児、女児それぞれで2024年までの各期間の女性子ども比を算出し、推計で用いる子ども女性比は5期間の平均から設定した。ここで設定した女性子ども比は推計期間にわたり使用した。

【女性子ども比】

0歳人口	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	5期間平均
男児	0.0182	0.0207	0.0207	0.0183	0.0211	0.0198
女児	0.0191	0.0188	0.0186	0.0171	0.0180	0.0183

●女性子ども比＝0歳人口÷女子15～49歳人口
 例) 2025年の0歳推計人口（男児）
 ＝2025年の女子15～49歳人口（26,345人）
 ×設定した女性子ども比（0.0198）※
 ＝521人 (※小数点以下4位まで表示)